

(参考様式5) 記入例

従業者等勤務の体制及び勤務

居宅介護、外出介護、行動援護又は介護保険法による訪問介護、介護予防訪問介護に携わる場合は、兼務となります。

サービスの種類 (外出介護)
 事業所・施設名 (○○ヘルパーステーション)

職種	勤務形態	氏名	第1週							第2週							4週の合計	週平均の勤務時間	常勤換算後の	資格の有無
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
管理者	B	○○ ○○	7	7	7	7	7	5	7	7	7	7	7	7	5	160	40		ホームヘルパー2級	
サービス提供責任者	B	○○ ○○	7	7	7	7	7	5	7	7	7	7	7	7	5	160	40	1	介護福祉士	
		サービス提供責任者計														160	40	1		
従業者	D	○○ ○○	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	120	30		ヘルパー2級	
従業者	D	○○ ○○	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	120	30		ヘルパー2級	
従業者	D	○○ ○○	4	4	4			4	4	4	4			4	64	16		ヘルパー2級		
従業者	D	○○ ○○			3	3	3				3	3	3		36	9		ヘルパー2級 ガイド(全身性・視覚)		
		居宅・外出従業者計														340	85.0	2.1		
従業者	C	○○ ○○				3	3	1.5							1.5	30	7.5		ガイド(全身性・視覚)	
		外出のみ従業者計														30	7.5	0.1		
		計														530	132.5	3.3		
事務職員	B	○○ ○○	7	7	7	7	7	5	7	7	7	7	7	7	5	160	40			

常勤の従業者が週に

その他常勤換算の必要のない職員については、分けて記載してください。

常勤換算対象者(この例では、サービス提供責任者から従業者まで)の4週の勤務時間数の合計・・・(ア)

サービス提供責任者及び従業者の週平均勤務時間数
 ……(イ) = (ア) ÷ 4

(イ) ÷ 40

- 備考1 もっとも基本となる勤務体制を記載してください。
- 備考2 申請する事業に係る従業者全員(管理者含む)について、4週間分の勤務すべき時間数を記入して下さい。夜勤、宿直等については、日
- 備考3 職種ごとに下記の勤務形態の区分ごとにまとめて記載し、「週平均の勤務時間」については、職種ごとに小計して下さい。
勤務形態の区分 A:常勤で専従 B:常勤で兼務 C:常勤以外で専従 D:常勤以外で兼務
- 備考4 常勤換算が必要な職種は、職種ごとにA~Dの「週平均の勤務時間」をすべて足し、常勤の従業者が勤務すべき時間数で割って「常勤換
- 備考5 算出にあたっては、小数点以下第2位を切り捨てして下さい。
- 備考6 勤務時間数には 休憩時間を除いて記載して下さい。

居宅介護の事業所の従業者(ヘルパー)が外出介護の事業所を兼務する場合、従業者が有する資格によっては、外出介護に従事することができない場合があります。
 (例えば、視覚障害者の移動介護の資格のみを有する場合、当該従業者は「居宅介護」に従事することはできません。)このような場合、まず、「居宅介護」と「外出介護」を兼務する従業者について「小計」し、その後に、特定の事業所に